

【第5次津島市総合計画】施策評価シート(2025年度)

施策コード	35
-------	----

まちづくりの方針	3 産業・環境・市民生活
施策	5 消防・救急
施策のめざす姿	火災や事故、災害に対する消防や救急の体制や設備などの備えが整うとともに、市民一人ひとりの防火意識が高まり、地域・消防団・ボランティア・事業者・行政の連携により、市民が安全・安心に暮らしています。

まちづくり指標	現状値 (2019年度)	実績値					目標値	
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2025年度	2030年度
消防・救急体制の充実に満足している市民の割合(%)【消防本部】	30.3	—	—	—	—		32.0	34.0
住宅用火災警報器設置率(%)【消防本部】	68.7	84.4	74.5	75.2	79.6		78.0	80.0

施策の方針	担当課	実績・成果
		今後の方向
1 消防力の充実	消防本部	<p>消防署及び消防団の資機材の整備について多様化する災害に対応できるよう装備の更新ができた。</p> <p>消防署及び消防団の資機材は、これからも整備を図り、市民の安全安心につなげていく。消防団員の加入については、引き続き地域に理解してもらえるよう説明し、確保に努めていく。</p>
2 消防広域化による市民サービスの向上	消防本部	<p>令和7年度から、通信指令システムの共同運用で名古屋市等8地方公共団体と共同で運用する方向で進めることができた。消防広域化については、会議を開催していくことができた。</p> <p>通信指令システムの共同更新事業は、令和7年度に向け今後も、継続する。消防広域化については、他市と継続的に協議していく予定。</p>
3 防火思想の普及啓発活動	消防本部	<p>住警器啓発、防火指導、地震体験、防災リーダー育成を実施した。</p> <p>住警器啓発、防火指導、地震体験、防災リーダー育成を実施していく予定。</p>
4 防火対象物及び危険物施設に対する防火査察体制の充実	消防本部	<p>飲食店等の防火対象物とガソリンスタンド等、市民が利用する機会が多い施設を中心に立入検査を実施し、保安管理の強化を図った。</p> <p>昨年改善が見られなかった対象物には継続的指導を実施。今年度も設備・危険物合わせて約250件の査察を予定しており、指導が必要である対象物では改善率100%を目指す。</p>
5 救急体制の充実【重点】	消防本部	<p>救急救命士の資格拡大育成を実施したことにより、市民に対してより高度な救急対応ができるようになった。</p> <p>救急救命士の配置転換等に対応するため、継続した育成計画をしなければならない。</p>
6 大規模災害対応能力の充実【重点】	消防本部	<p>車両の更新や資機材の整備が実施され出動体制の強化につながった。</p> <p>大規模災害をはじめとする各種災害に迅速対応できるよう隊訓練や、災害経験減少に対応できるように若手職員の育成を計画していかなければならない。</p>

総括評価	施策のめざす姿の達成状況	火災や事故、災害に対応するため、消防・救急体制の維持向上を目指し、研修の実施や車両を含めた機材の更新を進め、指令の共同運用を令和7年度から開始することができた。火災予防のための各種立入検査や救命講習等の普及啓発活動を実施することができた。	評価
			B
	施策のめざす姿の達成に向けて今後必要なこと	火災や事故、災害に対する消防や救急の体制・設備など継続的に整え、市民の防火意識が高まり、一人ひとりが地域の消防団やコミュニティに参加できるよう促し、自助・共助・公助として助け合う安全・安心な暮らしをめざします。	方針
			継続